

福井支部ニュース

2022年度 第5号:緊急アピール号

日本科学者会議福井支部

連絡先: 山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

◆原発緊急アピール 老朽原発美浜3号機の現状 (山本 雅彦)

《原発緊急アピール》

岸田政権が最初に動かそうとしている
老朽原発美浜3号機の現状を直視せよ!

岸田政権は8月24日、電力需給逼迫と脱炭素化を口実に、次世代型原発の建設を検討する方針を公表。そして、現在稼働中の6原発10基(美浜3号、大飯3、4号、高浜3、4号、伊方3号、玄海3、4号、川内1、2号)に加え、すでに新規規制基準の審査に合格している5原発7基(高浜1、2号、島根2号、柏崎刈羽6、7号、女川2号、東海第2号)

を再稼働させ、さらに、最長60年としてきた原発の運転期間の延長も検討するとしています。

先の参院選挙で、自公政権が3分の2の議席を獲得したことと、これから3年間は国政選挙がないことから、同日に開かれた脱炭素政策を議論する「グリーン・トランスフォーメーション(GX)実行会議」を前に、昨年10月に閣議決定した「エネルギー基本計画」を見直すことに踏み込んだもと見られています。

しかし、政府目標の来年夏から冬以降に再稼働させる目標を設定した5原発7基については、目標の1年余りの間に再稼働できる可能性はほぼありません。また、関西電力の美浜原発3号機の立地の美浜町民のみなさんを対象にしたアンケートでも、新增設や40年超えの老朽原発の再稼働には6割以上の方が反対だと回答し、7割以上の方が不安を持っていると回答されています。

そこで、老朽原発を最初に動かそうとしている美浜3号機の現状はどうなっているのか報告させていただきます。

原発政策の転換内容

	従来の方策 2021年10月 (エネルギー基本計画)	GX実行会議の方針 (8月24日)
原発への依存度	再エネを拡大する中で、可能な限り依存度を低減する	可能な限り原発依存度を低減は変わらない(経済産業省大臣)
新增設	(明確な記載はない)革新的技術の研究開発を進める	次世代革新炉の開発・建設の検討を進める
再稼働	規制委が新規規制基準に適合すると認めた判断を尊重し再稼働を進める	来年夏から冬以降に新新規性基準に適合済みの7基の再稼働をめざす
運転延長	長期運転を進めていく上での諸課題について、官民それぞれの役割に応じ検討する	運転期間の延長など既設原発を最大限活用する

	運転期間 (年)	稼働状況と再稼働の想定時期
関電・美浜3号(老朽)	45	2022年8月30日に原子炉を起動し、9月26日に運転を開始予定
関電・大飯3、4号	30、29	再稼働済み
同・高浜1号、2号(老朽)	47、46	テロ対策施設未完成で、2023年6～7月頃を想定
関電・高浜3、4号	37、37	再稼働済み
中電・島根2号	33	適合性審査につまずき、再稼働時期は未定
四国・伊方3号	27	再稼働済み
東北・女川2号	27	対策工事完了を5回延長、2024年2月頃を想定
原電・東海第2(老朽)	43	避難計画の実効性なし(水戸地裁)で、再稼働は見通せず
九電・玄海3、4号	28、25	再稼働済み
九電・川内1、2号	38、36	再稼働済み
東電・柏崎刈羽原発6、7号	25、25	テロ対策の不備で事実上の運転禁止命令。再稼働は見通せず

■ 運転開始から40年超えの「老朽原発」
 □ 再稼働済みの原発
 □ 政府が来年夏以降に再稼働を目指す原発

が最大の問題です。それら40年超え運転をストップできれば、原発ゼロは現実的に展望が見えてくることになります。

老朽美浜3号機運転禁止仮処分を大阪地裁に申し立て

40年超えの4基の原発中、最初に動かそうとしているのが美浜3号機で、昨年6月23日に運転を開始しましたが、特重施設(テロ対策施設)が未完成のため10月25日に運転を停止しました。その後、特重施設が完成し、この夏に動かす予定ですが、美浜3号機は活断層の奥の中にあり、重大事故を引き起こしかねない5つの大問題があります。

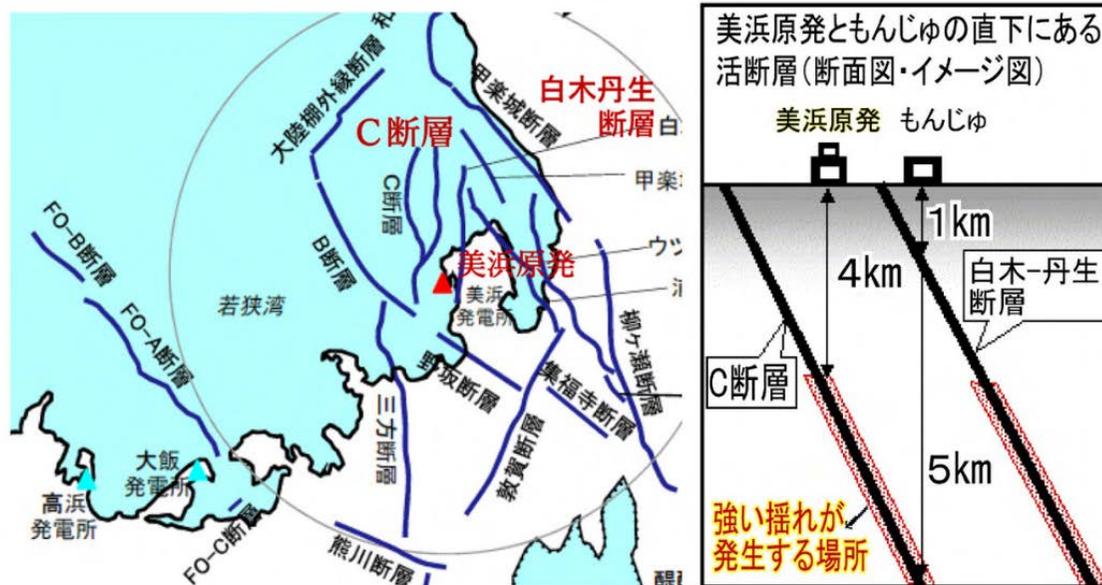
1つ目は、炉心の近傍に地震を引き起こす活断層があるにもかかわらず、新規基準にある「特別な考慮」をせず基準地震動を引き上げていないそのため、基準地震動を超える地震が来る危険性があります。

2つ目と3つ目は、断層は連動して動くこと、そして、地震は繰り返り起きること、これらが熊本地震で明らかになった新知見ですが、原発敷地

40年超え運転ストップで原発ゼロの展望が見えてくる

いま全国には40年超えの老朽原発が19基ありますが、その内、関西電力の高浜1、2号機と美浜3号機、東海第3の4基以外の15基はすでに廃炉が決まっています。また、40年超えに達していない4基を加えると、19基の廃炉が決定しています。

このような中、新增設が実質的に困難な現状のもと、老朽原発を動かすことができるかどうか、政府の原発政策を延命させることができるかの分水嶺となります。そのため、40年超えの新規基準の審査に合格している4基の原発の再稼働を許すのか



内には断層（破碎帯）が多数あるため、断層が連動して動き、繰り返し地震が起きれば、原子炉建屋や配管、機器などは損傷する危険性があります。

4つ目は、関電はコンピュータ計算で993ガルの基準地震動に耐えると説明していますが、当初あった「安全余裕」がほとんど無いことが想定され、さらに、肝心の炉心・原子炉容器、重要な配管や電線などは取り替えることはできません。老朽化で脆くなっているため破損する危険があります。

5つ目は、規制委員会が認めた美浜3号機の基準地震動は993ガルですが、「ばらつき」を考慮すれば1,330から1,780ガルになると指摘されています。規制委は今年6月、この「ばらつき」の考慮を削除しましたが、危険性は何も変わっていません。関電を助けただけ。

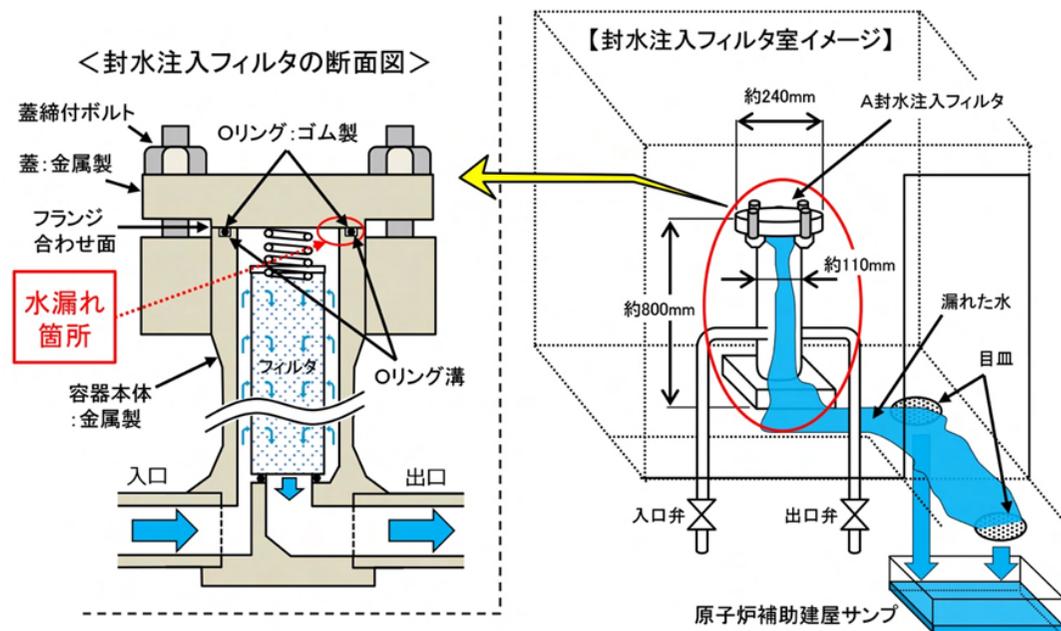
筆者を含む9名の原告は、こうした5つの問題などを争点にした民事の仮処分を大阪地裁に申し立てており、7月4日に審理は終了し、9月にも決定が出されようとしています。

美浜3号機は、再起動の直前に事故が頻発している

筆者らが参加する、オール福井反原発連絡会は8月4日、超老朽化した関西電力美浜3号機を動かして、もしものことがあったら取り返しがつかなくなることを指摘し、稼働を承認することが無いように福井県知事に申し入れしました。

知事はそのとき、すでに、8月1日に同3号機のA封水注入フィルタ付近での放射能を含んだ7トンもの水の漏れ事故を知っていましたが、それを我々はじめ県民に報告しませんでした。これは、知事が関電の立場を擁護しているとしか理解されず、県民への重大な背信行為です。

また関電は、8月21日、Aアキュムレータ（蓄圧タンク）圧力低警報



が発信したため「保安規定第51条の運転上の制限を逸脱」したと発表。このタンクは、重大事故が発生したとき、原子炉にホウ酸水を注入し炉を停止させる重要な機器にもかかわらず、原因は定期検査時の作業ミスで、安全弁に衝撃が加わり、動作設定値がズレたためとされています。これが事実なら、なんともお粗末極まりない事故で、定期検査技術が、相当、低下しているとしか思えません。定期検査体制と技術の見直しが必要です。

再稼働にむけてこれまで準備してきたにもかかわらず、再稼働の直前に事故・故障を繰り返し起こしていることは重大です。また、同様に高浜原発、大飯原発などでも再稼働の直前や直後に冷却系統の配管で事故・故障が頻発している事実は、重大事故の前兆といわざるを得ません。

今回の水漏れの原因は、下請け会社の作業員がふたをボルトで締めた力（トルク）が規定値の5分の1程度だった。このため、ふたの隙間をふさぐ円形のゴムに圧力がかかり破断した施工ミスによるものと考えられま

す。締め付けトルクの数値のミスは単純なミスであり、施工管理者か現場の技術者の能力が低下していることは明らかであり、今後も事故は際限なく繰り返されることになります。事故が起きてから「間違っていた」では済まされません。

そこで、筆者らは知事に、下請けの施工管理者や技術者、現場主任者や作業者が、どれだけ技術を持って作業に当たっているのかを把握するためにも、一旦すべての原発を停止させて、再稼働計画も中止し、定期検査のすべての「工事計画書」「作業要領」書及び、すべての定検データと、それを実施した作業技術者の資格取得状況と経歴を公開させることを求めました。

県の原子力安全対策課の山本晃弘参事は、「力量不足の問題は、非常に重要だと考えている。ベテランの経験豊かな方は、すでにリタイヤされていく中で、若手にどう技術継承していくのかは、ものすごく大きな問題だと思っている。」と述べましたが、対策は基本的に関電がやることだとし、筆者らの要請には応じませんでした。

さらに、関電は、作業前に「作業要領」を確認せず、作業終了時、重要機器のボルトの締め付けトルクを確認しませんでした。関電の責任は重大ですが、県は関電の責任について認めようとしませんでした。

重大事故につながる美浜3号機の再稼働は中止すべき

老朽原発は、長年の運転により、約320℃で160気圧という高温・高圧の蒸気が流れる主蒸気管が侵食・腐食され、また、冷却配管や機器でも熱疲労や金属疲労、応力腐食割れなどの損傷や亀裂が起きる危険性が高まっています。

こうした事故・故障は、完全に防ぎきれものではありません。それは、原発システムの構造そのものが高度かつ複雑であるということ、また、保守点検の完全実行の難しさに加え、電力会社の安全意識の緩みと欠

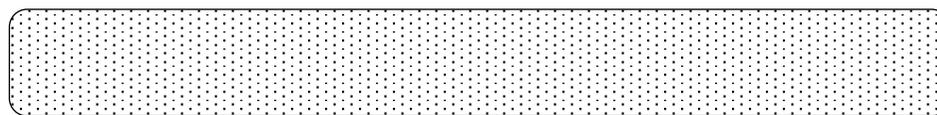
如、さらに、放射線被ばくをともなう危険な作業は下請けに押しつけるという体質によるものと考えられます。

よって、老朽原発の再稼働は絶対に認められません。重大事故につながる美浜3号機の再稼働は中止すべきです。

そのうえで、関電は当面のこととして、事故原因を徹底的に調査し、机上の確認に止めず、その結果を関電の全ての原発に水平展開し、定期検査以上の安全総点検を行い県民に明らかにすべきです。

そうすれば、美浜3号機は超危険で、動かすことはできないことが分かるでしょう。

(山本 雅彦)



<<編集後記>>

お届けする福井支部ニュース第5号は緊急特別号です。大阪地裁に老朽美浜3号機運転禁止仮処分申請に携わっている山本雅彦氏からのもので、岸田政権の老朽原発の再稼働方針に対する抗議の緊急アピールです。

岸田首相は、F1 原発事故以降の脱原発方針を大きく転換し、7月には規制委の認定原発を中心に原発の再稼働や40年超えの稼働方針を出し、さらに8月24日には原発の増設・新設や小型新原発の開発まで言いました。ロシアのウクライナ侵攻を直接の契機とする原油・天然ガスの高騰とはい条、再エネ政策がほとんど無策に近い状況を放置しながら原発でGXを、と言うのはほとんどブラックジョークでしょう。(OG)

2022年度後期の会費納入をお願いします

今年度後期の会費をお願いします。また、過去の未納会費のある方は、分納でも結構ですので、至急納入をお願いします。